



環境協力戦略研究会報告書

「今後の環境協力の方向性－SDGsに焦点を当てて－」とOECCの立場

OECC 研究顧問 / 環境協力戦略研究会
事務局長

片山 徹

本年、2015 年は、国際環境協力にとって画期的な年である。まずは、2015 年 12 月にパリで行われる COP21 会合での 2020 年以降の気候変動枠組の採択、そして 9 月の国連総会における 2016 年～2030 年までのポスト 2015 年開発アジェンダと「持続可能な開発目標 (SDGs)」の決議である。

このような国際的な動きの中で昨年 3 月に OECC 内に設置された環境協力戦略研究会 (会長 鈴木基之 OECC 会長) は、SDGs (持続可能な開発・2030 と呼称) に関して特に焦点を当てて検討を行い、本年 4 月に報告書「今後の環境協力の方向性について－SDGs に焦点を当てて－」をまとめた¹。SDGs とは、2015 年に終了するミレニアム開発目標 (MDGs) に引き続き、環境の持続可能性確保に重点を置いて検討されている国際目標のことである。

報告書の視点は、(1) 国際環境協力の重要地域であるアジアの発展のダイナミズムとそれが内包するリスクについての概観 (2) 持続可能な開発・2030 の特質についての検討 (3) この新たな要求に応えるための基盤となる日本と途上国の取組主体の広がり及力量の進展と課題の分析 (4) 要求に応えるためのアプローチとそのための体制上の課題への提案 である。

報告書の結論ともいえるべき (4) の提案「持続可能な開発・2030 の実現を支援する国際環境協力のあり方」について要約すると

- ・「今後の国際環境協力のあり方」が中央環境審議会によりとりまとめられ本年あたかも 10 年を迎えた。この 10 年間の国際環境協力の取組を俯瞰すればその内容上の深化、課題の広がり、そして取組主体の拡大を踏まえ、今後の持続可能な開発・2030 実現のための協力の要は、広がりを見せている日本及び途上国の取組主体の力を如何に統合するかにかかっている。
 - ・この観点で環境省とその関連機関の役割は極めて重要となる。
 - ・このことを第一の優先課題とし、次の六つの取組をあげている。
- (1) 持続可能な開発・2030 を展望し、国際協力の要としての環境省の体制の充実、強化を図る。具体的には常設の戦略タスクフォースの設置を提案する
 - (2) 持続可能な開発・2030 の実現のための計画のあり

- 方の検討に着手する
 - (3) 環境技術、ノウハウの社会実装を推進する
 - (4) アジア先行グループの経験、能力の活用を促進する
 - (5) 持続可能な開発・2030 を目指す産業活動の範を示し、途上国産業界の能力向上と地域発展を支援する
 - (6) 調査研究活動の抜本的強化を図りつつ具体的な活動に着手する
- 以上が報告書に示された提案内容の概要である。

現在、アジア地域では経済発展の著しい国々からの温室効果ガス排出量が増加し、地域全体がその影響下にあり、緩和策や適応策の強化に加え、さらに持続可能な発展への道を切り拓いていくことが強く求められている。気候変動対策は、SDGs の達成へとつながり、その逆も成立する。SDGs と気候変動への対応は切っても切れない関係にある。今後、両問題への対応がそれぞれにより相乗効果を生み出すことは必至であるといえる。

OECC は、独自の事業として技術部会が「ラオスにおける SATO－ビレッジ構想」をテーマにして 2009 年度～2012 年度に取り組んだ。これは生物多様性条約第 10 回締結国会議 (COP10) に向けた SATOYAMA イニシアティブを推進することを目指したフイージビリティスタディであった。ラオスの地方の農村を対象にした農村開発と環境保全の調和、すなわち SDGs の要である生態系サービスの持続可能性を具現化するものであった。その実施過程で、参加した会員企業の若手の人々の能力向上に寄与できたことは大きな成果であり、SDGs の取組に先駆的に実績を残せたものと強く自負できるものである²。

最後に報告書を作成するに当たりご指導をいただいた鈴木基之研究会会長、竹本和彦氏 (国連大学サステナビリティ高等研究所所長)、谷津龍太郎氏 (中間貯蔵・環境安全事業株式会社代表取締役社長)、またご協力をいただいた客員研究員の今井千郎氏 (元 JICA 国際協力専門員)、斉藤貢氏 (現在環境省環境保健部環境安全課課長補佐) 並びにご助言を頂戴した関係者の皆様に深甚の感謝を申し上げたい。

¹ 報告書は http://www.oecc.or.jp/contents/studygroup_report.html からダウンロード可

² 詳細は <http://www.oecc.or.jp/contents/research.html> を参照